

感染症・結核業務を強化します

県では、感染者や患者の増加が懸念されるエイズ、発生が危惧される新型インフルエンザなどの感染症対策のほか、確実な治療を目指した結核対策を推進するため、平成18年4月から保健所業務の一部を次のとおり充実強化します。



1 HIV抗体即日検査日の拡大

本県ではHIV感染者・エイズ患者の届け出が増加しており、早期発見・早期治療のため、HIV抗体検査の受診機会の拡大が求められています。

そこで、4月から中部福祉保健所(中部保健所)、南部福祉保健所(南部保健所)、中央保健所において、検査日当日に結果を説明する「HIV抗体即日検査」の実施日を拡大します。

2 クラミジア検査の実施

HIV感染のリスクを高める性器クラミジア感染症が10代、20代の若い世代で増加しています。自覚症状がないことも多く、女性の場合、未治療のまま放置しておくとな妊などの原因にもなります。

県ではその対策の一環として、5月から中央保健所にて、クラミジア感染症の検査を開始します。詳しい内容については、中央保健所(TEL098-854-1005)までお問い合わせください。

3 結核業務の強化

結核は、確実な治療こそが最大の予防と言われていま。結核患者の確実な治療のため、保健所では医療機関と連携し、患者さんの服薬を直接確認する「直接服薬確認短期化学療法(DOTS)」により、治療体制の強化を進めていきます。

一般健康診断などの業務終了

エイズ対策を含む感染症対策を強化するため、次に示す業務については3月末日をもって終了しました。4月以降は、最寄りの医療機関や検査機関のご利用をお願いします。

| 終了する業務 | 対象機関 |
|--|---------------------------|
| ●就職・進学、免許申請(更新)、事業所定期検診など診断書発行のための健康診断(一般健康診断) | ●中部福祉保健所(中部保健所) ●中央保健所 |
| ●診断書や証明書の発行を目的とする個別検査(細菌、尿、虫卵、ぎょう虫など) | ●南部福祉保健所(南部保健所) |



あなたは関係ないと思っていませんか?

エイズの原因は、HIV(ヒト免疫不全ウイルス)と呼ばれるウイルスの感染です。HIVは血液、精液、膣分泌物、母乳に含まれていて、性行為、授乳、輸血、注射針の共有などで感染します。エイズは、HIVに感染し免疫力が低下することによって発病し、さまざまな感染症や悪性腫瘍にかかってしまう病気です。感染に気づかないままですと、感染後約10年程度で発病します。

平成18年1月1日現在の届け出数は、全国でHIV感染者7,338件、エイズ患者3,623件、県内では、HIV感染者48件、エイズ患者37件となっています。本県における人口10万あたりの届け出数は、九州地区で最も多くなっています。

感染経路の85%が性的接触感染で、20代、30代の届け出数が増加しています。エイズは特別な病気ではなく、性行為をする人なら誰でも感染する可能性があります。

HIV感染を防ぐには、次の3点を確認し安全な性行為を行うことが大切です。

- ①相手も自分もHIVに感染していない。
- ②お互いに他のパートナーがいない。
- ③最初から最後まで、正しくコンドームを使う。

エイズについて関心を持ち、正しい知識を身につけて実行することが、あなたとあなたのパートナーを守ります。

沖縄科学技術大学院大学を 中心としたまちづくり

世界最高水準の研究教育機関を目指す沖縄科学技術大学院大学の開学に向けて、準備が着々と進んでいます。

三月四日、大学院大学を中心としたまちづくりについて、キャンパス建設予定地(恩納村字谷茶 南恩納地区)近くのホテルで開催されたフォーラムの様子をご紹介します。

施設整備マスタープランより

- ①キャンパス所在地: 恩納村字谷茶、南恩納地区
- ②敷地面積: 222.1ha(丘陵地区:約213.4ha、海岸地区:約8.7ha)
- ③施設規模: 開学時:主任研究者が50人規模、建物面積が約7万㎡
将来構想:主任研究者300人程度、建物面積約25万㎡



大学院大学キャンパス・プランニング・グループ議長の北野宏明氏による講演

国際レベルのまちづくりを大学と地元がともに 大学院大学を中心としたまちづくりについて地元と一緒に取り組んでいくために開催(主催:沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議)されたフォーラムには、多くの村民の皆さんの姿が見られ、今年一月に発表された施設整備マスタープランの発表を受け、いよいよ具体化する大学院大学に対する関心の高さが伺えました。

研究者を魅了するよう なまちづくりを進めていくことが重要であり、美しい海岸線の保全など積極的な環境構築に取り組んでいくことが必要であると訴えました。

大学院大学と周辺の「まちづくり」について

先行研究プロジェクト代表研究者の遠藤省吾氏、地元恩納村商工会会長の當山憲一氏、教育委員会委員長島袋正重氏らによるパネルディスカッションが行われました。

今後の県の取り組み 大学院大学の開学に向け、大学院大学近辺に第一次医療が提供できる医療機関を確保するなど医療の充実、自動車道整備を含めたアクセスなどの課題があります。



先行研究プロジェクト代表研究者の遠藤省吾氏



恩納村教育委員会委員長の島袋正重氏



コーディネーターの名桜大学教授宮平栄治氏



恩納村商工会会長の當山憲一氏

